東京府が集めた江戸期史料
― 東京府文献叢書

東京府記録掛編修部は、地誌・府史編纂事業のために、明治11年（1878）から明治20年代にかけて江戸期史料の写本作成を行いました。主として当時未公刊であった江戸時代以来の地誌を集めた甲集（全125巻）と、東京府の行政沿革、歴史的な考証の資料となるものを集めた乙集（全25巻）とからなります。

その後、東京では震災や戦災により多くの史料が失われました。このことを考えると、明治前半期に系統的な史料調査と写本作成が行われ残されてきたことには大きな意義があったといえるでしょう。

ここで紹介した「刑罪大秘録」は、北町奉行所与力の蜂屋新五郎親子が文化11年（1814）に完成させた、取り調べ・拷問・処刑のマニュアルです。

「刑罪大秘録」（『東京府文献叢書』乙集十六）
石責めに関する記録によれば、罪人に載せる石は伊豆石で、
１枚の重さは13貫目（48.75kg）と記されている。
この図では4枚で195kgとなる。